

# さんくす

## 急ピッチで進む阿左美バイパス工事

県道68号線(桐生伊勢崎線)の拡幅に伴い、旧阿左美駅周辺の工事が急ピッチで進んでいます。

桐生方面への車線は埋蔵文化財の試掘を経て道路の形状が姿を現しました(写真右)。この車線の供用開始のためには阿左美アンダーの工



事が進み、車線拡幅の条件が揃うまで待つことになりそうです(写真左)。阿左美アンダーの完成は令和4年5月頃が予定されています。

バイパス拡幅でその処遇が取り上げられているのが、旧阿左美駅のホームにある縄文時代

の住居跡です。現在、駅舎やホームは取り壊されたものの、遺跡はこれまでと同様に保存され、安全に見学できるように工事が進められています(写真右)。

今後は旧阿左美駅の跡地も埋蔵文化財の発掘調査が行われた後、拡幅され供用開始になります。



## 行政区の動き

区長 赤石太郎

この一年を振り返ると、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた年になりました。

行政区の行事の多くが中止となり、区民の皆様には不安な思いと説明不足からのご迷惑をおかけしたことが残念でなりません。

隣組長会議中止から始まり、三区納涼祭、笠懸祭り、敬老祝賀会、荒神山清掃、といった大きな行事から育成会をはじめ各種団体の恒例行事も多く取りやめの状態でした。

ただ、区民の皆様のご理解とご協力もあって区費、特別区費は例年通り集まり、身の引き締まる思いと、今後の行政の在り方を強く考えさせられました。

出来ることから始める第一歩は、道路と公民館整備と考え、総務課、建設課、危機管理課などに対して掲示板、砂利道整備、カーブミラー設置、防犯灯設置など多くの要望申請を行い、幸いにも、ほぼ達成出来ました。

基本の仕事の大切さを実感した一年でしたが、仲間と先輩がたの手助けなくては出来ないことが多いと改めて思いました。いずれにしても一刻も早いコロナ感染の撲滅と平常が待たれます。

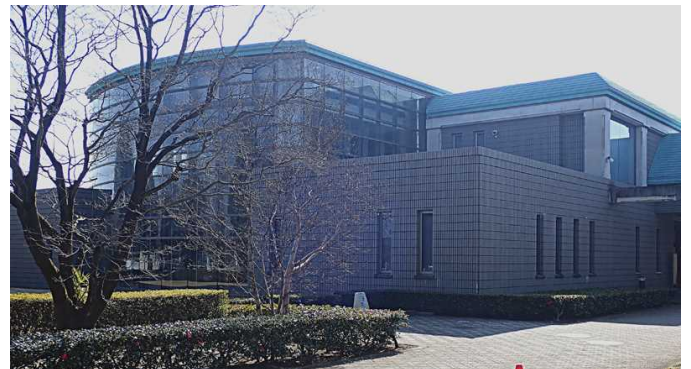
## 散歩道 (15) 笠懸公民館

笠懸公民館は、市町村合併でみどり市が作られる前は笠懸小学校の近くにありました。旧笠懸公民館が老朽化し、また施設も日常の活動で何かと手狭に感じるところも多かったことから建築されました。

従来の笠懸公民館は国庫補助金を受けて建設されましたが、まだ耐用年数が残っていて取り壊せないことから、新公民館は「笠懸町まちづくり交流館」という名称で開館しました。

公民館建設の時期は「ふるさと創生」として各市町村がまちづくりとして施設整備を行った時期で、岩宿文化資料館(現岩宿博物館)・笠懸野文化ホール・笠懸図書館などもその時期に建設されました。

笠懸町は公民館活動が活発で、社会教育の本にも取り上げられるほどです。公民館には「つどう」「まな



ぶ」「むすぶ」という理念があります。社会教育施設としての理念は地区公民館にも引き継がれています。「自ら考え行動する」という地域活動は、公民館の思いが引き継がれた笠懸町の文化といえるかも知れません。

## 笠懸東小学校4年生が 阿左美沼清掃

11月12日(木)、笠懸東小学校4年生による阿左美沼清掃授業が児童86名、教職員保護者12名、阿左美沼土地改良区役職員、支援協議会役員など総勢114名が参加して実施されました(写真)。

この授業は平成13年以来総合学習の一環として20年継続して実施されています。当日の朝は今季一番の冷え込みで初霜が観測されました。日中は穏やかな小春日和となり午後2時より改良区理事長の挨拶や、教頭先生から注意事項が説明された後、清掃作業に入りました。

今年は秋に雨天が多かったのでぬかるみにはまる児童が見られましたが、コロナ禍での貴重な屋外授業が嬉しそうでした。近年は大型の不法投棄物が無くなり毎年ゴミの量は少なくなっていますが、ポリ袋などのプラスチックゴミが増えているのが目につきました。この授業を通して地域の美化とゴミを捨てない意識向上に役立ててほしいものです。



## 公民館表札看板の新調

三区公民館(昭和63年4月築)は今年で30年以上経過しました。そのため正面玄関の左手にあった第三区公民館と書かれた看板の文字が部分的に消えている状態でした。

各種団体からの指摘を受け、行政役員、分館役員で協議して新たに表札看板を作ることとなりました。

完成した看板はヒノキ材で、11月16日に公民館正面玄関のドアの右横壁に堂々と掲げられ、古い看板は倉庫保存しました。

製作においては耐久性が高いヒノキ材を利用し、以前の看板字体を真似ることを念頭に制作しました。

製材所から同じ大きさにあつらえた材料を入手し、看板職人による黒ペンキの手書きです。今後は三区公民館の顔の一つとしてまた区民に見守られることとなります。



新調された看板

## 役員らが公民館の大掃除

12月6日(日)、午前9時半から12時まで、三区公民館で行政区3役と公民館主事以下4名による大掃除が行われました。

今回はコロナ感染予防のため、参加者は少数でしたが、障子の張替えとエアコンフィルター清掃を中心に行いました。

それ以外の掃除場所は三区公民館長より事前に別の日に少人数での館内掃除を行うよう各種団体にお願ひしました。本年は、公民館使用が少なく汚れも例年に比べて少ないと報告がありました。

別の日には、行政区は防災倉庫の点検作業も行いました。また、親老会の方10名ほどが、子ども広場グラウンドでグラウンドゴルフの定期練習使用が行われていたことから、終了後に後片付けとグラウンド整地作業の協力していただきました。

## 荒神山散策記 (4) 春を待つ山野草たちカタクリ

11月にきれいな紅葉を見せてくれた木々も、12月になるとほとんどの広葉樹が落葉し、山は一面落ち葉に覆われています。

強風が吹いた後には多くの枝がハイキングコースに散乱していることもあります。

1月初めに吹いた強風により、幹の径が50センチメートルもある枯れた赤松が折れていました。普段はおとなしい荒神山ですが、こんな荒々しい一面もあります。

厳しい冬の寒さを落ち葉

の下でじっと耐え、芽吹くタイミングを見計らっている健康な山野草達にもうすぐ再会できるかと思うと、本当に春が待ち遠しいです。町のシンボルであるカタクリが先陣を切りますので、皆さんも楽しみにして下さい。

今年度はコロナ禍で今までに経験したことのない苦労を強いられっていますが、山野草達のように耐えていれば、必ずや平穏な日常が戻ることを信じて1年間の掲載を終了させていただきます。ありがとうございました。



## 浅海八幡宮で節分祭

2月2日(火)、浅海八幡宮において節分祭が行われました。慣例として2月3日が節分と決まっていますが、今年では2月2日(火)でした。

3日でなくなるのは1984(昭和59)年2月4日以来37年ぶり、2日になるのは1897(明治30)年2月2日以来124年ぶりのことです。旧暦では春から新しい年が始まったため、立春の前日が季節を分けるという意味で、節分と言われていました。つまり、今で言う新年の前日で大晦日に相当する大事な日でした。この季節の分かれ目、特に年の分かれ目には邪気が入りやすいと考えられており、節分は新年を迎えるための邪気払いの行事でした。

浅海八幡宮では今年ではコロナ禍であり総代役員だけで、地域の安寧と発展、また一日も早いコロナ感染症の終息を祈祷しました。



## みどり市ブランドの純粋蜂蜜

赤石養蜂場(養蜂場長:赤石陸翁さん写真)で生産されている純粋蜂蜜は「みどり市ブランド」商品に認定されています。

みどり市ブランド商品は、みどり市が認証した、市内で製造された優れた商品や工芸品等のことで、認証マークがその目印です。市が自信をもってお勧めする自慢の商品です。

みどり市ブランドには、食ブランドと工芸ブランドがあります。食ブランドは現在23品目、工芸ブランドは7商品があります。純粋蜂蜜は食ブランドの中の1つで「健康を守る花の贈り物」として、赤石養蜂場の自宅の庭や周辺の花々から採密

した、混じりっ気のない純粋なハチミツが自慢です。

春は菜の花や桜、夏は栗や柿、みかんなど、年6回、みどり市内の様々な花の蜜をしぼります。アカシア蜂蜜はくせがなく、淡い香りソフトな甘さ。百花蜜は春・夏の花から採取した蜜で、色や風味が強くミネラルも豊富です。純粋蜂蜜には、各種のビタミン類、アミノ酸等の貴重な成分が含まれ、花の香りそのままの風味とまろやかな甘みが多くの人に愛用されています(市ホームページより)。



これまでブランドに4回認定されており、みどり市のふるさと納税の返礼品としても人気です。しかし、近年では蜂の増殖が大変難しくなっているそうです。養蜂場を営むに当たり最も気を遣うところは、蜂が隣近所に水を飲みに行ったときに人を刺したりして迷惑をかけてしまうのではないかとことだそう。蜜蜂が活発に動く様子を観察できることや蜜蜂が集めた自然の恵みのお裾分けをいただけるところが魅力と話されていました。

## 小沼西側道路沿いに 農地・水がパンジー植栽

11月22日(日)、午前9時より農地・水環境保全協議会主催による小沼西側道路沿いにパンジーの植栽が実施されました(写真)。

当日は協議会構成員、阿左美地区の自然と歴史を探索会の会員など13名が参加しました。

パンジーはスミレ科スミレ属でビオラと共に秋から花が咲き始め春までの長く楽しむことが出来ます。殺風景になりがちな冬のガーデンにはなくてはならない存在です。冬の厳しい寒さに耐え、陽春の訪れと共に鮮やかな花弁を楽しませてくれることでしょう。



## 日本野鳥の会群馬支部が阿左美沼の野鳥探索調査

昨年の11月22日(日)、阿左美沼において10時から家族向けの阿左美沼市民探鳥会が日本野鳥の会群馬支部主催で開催されました。毎年この時期に調査が行われているようです。

内容は、初心者向けの探鳥会で、カモを中心とし、ほぼ定点で観察できるコースです。

日本野鳥の会は1934年に設立された公益財団法人で、「野鳥も人も地球のなかま」を合言葉に、野鳥や自然の素晴らしさを伝えながら、自然と人間とが共存する豊かな社会の実現をめざし、活動を続けている自然保護団体です。

全国の連携団体や会員、支援者と連携・協力しながら、日本各地の問題に取り組んでいます。主に自然保護活動、自然観察や保護の普及活動、自然系施設の運営活動、収益活動を行っています(会ホームページより)。

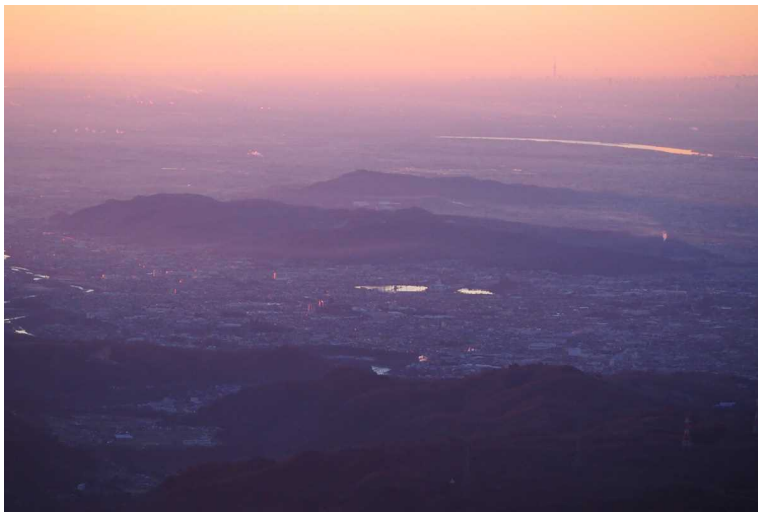
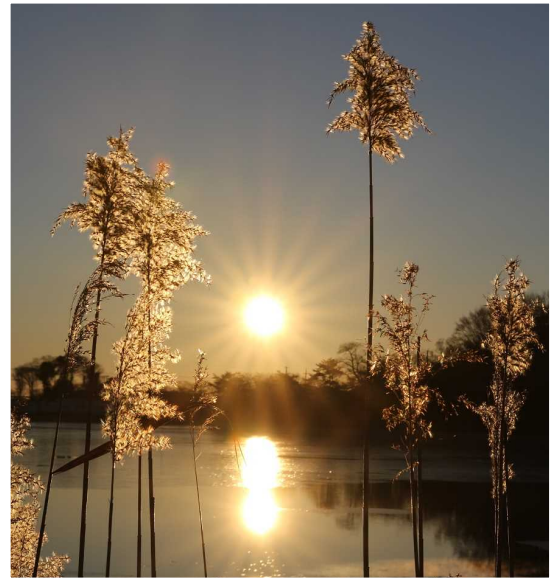
## Graph 年末年始の風景



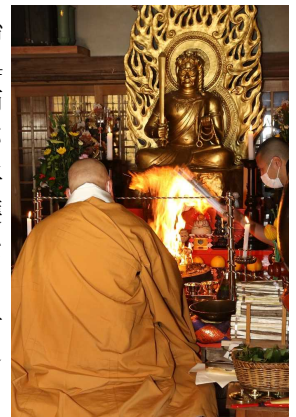
写真左：ニューイヤー駅伝、接戦の2位争い。沿道での声援自粛の中でも選手は力一杯走り抜けて行きました。

写真右：阿左美沼からの穏やかな初日の出。例年より多くの人を訪れ手を合わせていました。

写真下：赤城山鳥居峠からのぞむ阿左美沼周辺を柔らかな朝日が照らします。コロナウイルスが去り、安息の日が訪れることを祈らずにはられません。



写真右：南光寺の年始厄除け護摩焚き。1月4日(月)、本堂にて薬師如来厄除け護摩焚きが行われましたが、例年と異なり一般の方の護摩修行参加は中止となりました。奇跡的にも護摩焚きでは今年の干支とである牛の形をした炎が浮かんだ。



### 子ども育成会の活動について

日頃より、育成会活動にご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。今年度は新型コロナウイルスの影響により、感染拡大防止と皆様の健康を最優先と考えて育成会および子ども会の活動を自粛しました。

そのため今年度も区民皆様からご協力いただきました育成会協力金につきましては、長年にわたり使用してきた育成会活動に必要な治具として、毎年3回実施の資源ごみ回収で使用していた、空き缶つぶ

し機を購入させていただきました。

令和3年度は新役員体制となりますが、新型コロナウイルス感染症が収束傾向となり、いつでも活動が再開できるよう、役員一同も準備を進めていきます。

これまでの育成会活動は、多くの子ども達が行事に参加して役員が育成をサポートすることで、地域の活性化に繋がっています。

そのためには、引き続き区民皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和2年度 三区子ども育成会会長 久保田麻美

### ちょっとピンぼけ

私も毎年、花粉症に悩まされている一人である。発症は今から40年以上前になる。

そう!!まだ花粉症という存在を知る前からになるが、毎年春先になると、なぜか決まって鼻水がきりなく出ている。

その為、いつも鼻の下が真っ赤に腫れていたのと、ゴミ箱がティッシュだらけになっていて、風邪をひいているわけでもなくモヤモヤしながら過ごしていた。

それから数年後、花粉症という言葉が世に出回った

事により、初めて自分もスギ花粉症なんだと分かり、気持ちにはスッキリした。だが一般に花粉症の4大症状(くしゃみ・鼻水・鼻詰まり・目のかゆみ)や倦怠感など症状は全然スッキリせず年々酷くなる。

今ではヒノキ花粉の症状で咳(喘息)が酷く出る時がある。コロナ禍の影響もあって、ちょっとでも咳をすると疑われてしまう。去年は咳が出る度に周囲の人にアレルギー性喘息ですと説明するのに疲れる有様。嫌でもやってくる花粉ですが、今年も頑張ります!!(利)